

令和3年度

事業・決算報告書

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

I. 事業報告

II. 決算報告(計算書類)

社会福祉法人

真光会

目 次

I 事業報告

1. 概 要	1
2. 事業実施状況	3
(1) 会務の運営	3
(2) 役員及び評議員の状況（令和4年3月31日現在）	4
(3) 令和3年度実施事業等	5
3. 施設福祉部	6
(1) 令和3年度 特別養護老人ホーム三和荘事業報告	7
(2) 短期入所生活介護利用状況	10
(3) 令和3年度 月別行事報告	12
(4) 令和3年度 実習受入実績報告	12
4. 在宅福祉部	13
(1) 三和荘通所介護事業所	15
(2) グループホーム三和の邑	17
(3) 三和荘訪問介護事業所	19
(4) 三和荘居宅介護支援事業所	20
(5) 地域包括支援センター	21
(6) 三和荘ケアハウス	25
(7) グループホーム出水	27
(8) デイサービスセンター出水	29
(9) グループホーム三和苑	32
(10) 三和苑デイサービスセンター	33
5. 事務部	37
6. 災害対策・安全衛生管理・設備保守点検	38
7. 職員研修の状況	39
(法人決算報告書)	
1. 財産目録（別紙4）	44
2. 法人単位資金収支計算書（第一号第一様式）	46
3. 法人単位事業活動計算書（第二号第一様式）	47
4. 法人単位貸借対照表（第三号第一様式）	48
5. 社会福祉事業区分資金収支内訳表（第一号第三様式）	49
6. 社会福祉事業区分事業活動内訳表（第二号第三様式）	50
7. 社会福祉事業区分貸借対照表内訳表（第三号第三様式）	51
8. 計算書類に対する注記（法人全体）（別紙1）	52

9.	寄附金収益明細書（別紙 3(②)）	55
10.	補助金事業等収益明細書（別紙 3(③)）	56
11.	基本金明細書（別紙 3(⑥)）	58
12.	国庫補助金等特別積立金明細書（別紙 3(⑦)）	59
	（三和荘拠点区分決算報告書）	
13.	三和荘拠点区分資金収支計算書（第一号第四様式）	60
14.	三和荘拠点区分事業活動計算書（第二号第四様式）	63
15.	三和荘拠点区分貸借対照表（第三号第四様式）	66
16.	計算書類に対する注記（拠点区分）（別紙 2）	67
17.	基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書（別紙 3(⑧)）	70
18.	引当金明細書（別紙 3(⑨)）	71
19.	三和荘拠点区分事業活動明細書（別紙 3(⑩)）	72
20.	積立金・積立資産明細書（別紙 3(⑫)）	73
	（三和荘ケアハウス拠点区分決算報告書）	
21.	三和荘ケアハウス拠点区分資金収支計算書（第一号第四様式）	74
22.	三和荘ケアハウス拠点区分事業活動計算書（第二号第四様式）	76
23.	三和荘ケアハウス拠点区分貸借対照表（第三号第四様式）	78
24.	計算書類に対する注記（拠点区分）（別紙 2）	79
25.	基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書（別紙 3(⑧)）	81
26.	引当金明細書（別紙 3(⑨)）	82
27.	積立金・積立資産明細書（別紙 3(⑫)）	83
	（出水拠点区分決算報告書）	
28.	出水拠点区分資金収支計算書（第一号第四様式）	84
29.	出水拠点区分事業活動計算書（第二号第四様式）	86
30.	出水拠点区分貸借対照表（第三号第四様式）	88
31.	計算書類に対する注記（拠点区分）（別紙 2）	89
32.	基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書（別紙 3(⑧)）	91
33.	引当金明細書（別紙 3(⑨)）	92
34.	出水拠点区分事業活動明細書（別紙 3(⑩)）	93
35.	積立金・積立資産明細書（別紙 3(⑫)）	95
	（三和苑拠点区分決算報告書）	
36.	三和苑拠点区分資金収支計算書（第一号第四様式）	96
37.	三和苑拠点区分事業活動計算書（第二号第四様式）	98
38.	三和苑拠点区分貸借対照表（第三号第四様式）	100
39.	計算書類に対する注記（拠点区分）（別紙 2）	101
40.	基本財産及びその他の固定資産（有形・無形固定資産）の明細書（別紙 3(⑧)）	103
41.	引当金明細書（別紙 3(⑨)）	104
42.	三和苑拠点区分事業活動明細書（別紙 3(⑩)）	105
43.	積立金・積立資産明細書（別紙 3(⑫)）	107

I 事業報告

1. 概 要

(1) 当法人では、その使命・理念・基本方針の下、昨年度の努力目標に沿い、かつ「個別対応」「尊厳の重視」「自立支援」という介護・福祉の原点に立ち、職員一丸となって地域福祉の向上に努めてまいりました。

令和3年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症予防の観点から、法人主催の行事はそのほとんどを中止し、各事業所の行事も中止あるいは限定的にせざるを得ませんでした。また、ご利用者とご家族の面会も、パーテーション越しでの面会が出来た時期もありましたが、ほとんどの期間は面会制限しなければならず、心苦しい日々が続きました。

ご利用者・職員の新型コロナウイルスのワクチン接種や職員の定期的なPCR検査（ないし抗原検査）も計画的に実施することができました。それらと平日頃からの感染対策のおかげで、入所・入居系の施設におけるご利用者の新型コロナウイルス感染症の罹患者はゼロを継続することができました。今後も引き続き万全の感染対策に努めます。

令和3年度も熊本市から子育て支援優良企業の認定を受けたり、新たな企業主導型保育施設との間で契約を締結したりするなど、職員の子育て支援にも取り組みました。今後も、子育て世代の職員の支援を強化していきたいと思えます。

介護人材の不足感は年々強くなっており、就職フェアやインターネットを活用した採用活動を行いました。そこまで効果的な活動は行えませんでした。今後の課題です。予定していた外国人技能実習生の受け入れは、送り出し国の政治情勢の影響から実現することができませんでした。次年度以降の受け入れになる見込みです。また、高校生を対象に計4日間フィールドスタディを行い、福祉に関する知見を深めてもらいました。受講生の中から将来福祉に携わる人が少しでも多く出てきてくれることを期待しながら、今後も継続できたらと思えます。

年度末には、本体建物のエレベーターの改修工事を行いました。その影響でエレベーターが全く使えない期間が1週間程ありましたが、講習を受けた複数名の職員が可搬型階段昇降機を活用することにより、ご利用者への影響を最小限に抑えつつ、無事に乗り切ることができました。

(2) 施設介護（特別養護老人ホーム）では、令和3年度も従来から行っている自立支援やおむつに頼らないケアや認知症ケア等を継続しつつ、ご利用者の人としての尊厳の保持に努めました。

ご利用者の平均要介護度は4.1とこれまでで一番高い数値でしたが、取り組み開始から2年が経過したノーリフティングケアの定着により、ご利用者と職員の身体的な負担は寧ろ軽減できています。そのノーリフティングケアについては、全職員が同じレベルで出来るようになることと、新人職員にいかに効率的かつ効果的に伝授するかが今後の課題です。

褥瘡は0（ゼロ）を達成することができませんでした。しっかりとその原因を分析し、看護職を中心に多職種が連携して改善に繋げ、次年度は褥瘡0（ゼロ）が達成できるように取り組みます。

看取りについては、令和3年度も6名の方を看取ることができました。コロナ禍ということで感染予防の観点から人数や時間を制限せざるを得ませんでした。が、できるだけご家族の思いに寄り添えるように努めました。

令和3年度は、12名の退所者がおりましたが、入退所の期間が2週間以内になるように努めることで、年間の利用率は目標値(95%)を超えることができました。ただ、ショートステイは前年度と同様に感染症予防の観点から新規利用を控えたため、利用率は25%と低い数値でした。

- (3) 在宅介護も、令和3年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の予防策に力を入れながらの業務でした。感染が落ち着いた時期には、荘外行事や買い物や地域活動等を再開できた時期もありました。その際のご利用者のいきいきした表情を見ると、改めて行事や外出等の重要性を痛感しました。認知面への影響も大きいため、できるだけ早く以前のような行事や外出等が再開できたらと思います。

また、全ての事業所において、接遇の強化、自立支援、認知症ケアには特に力を入れて取り組みました。接遇面については効果が出てきている部分も見受けられますが、より高いレベルを目指して次年度以降も引き続き力を入れたいと思います。自立支援や認知症ケアについても、各事業所で研修を行ったりPDCAサイクルを活用しつつ実践に繋げたりすることで、職員のレベルアップを図ることができました。

在宅サービス事業所の中には、感染対策を採っていたにも拘わらず、職員やご利用者に新型コロナウイルスの感染者が発生したために1週間ほど休業した事業所もありました。その経験を活かし、今後のより効果的な感染症対策に繋げて行けたらと思います。

在宅サービスの利用率については好不調の差が大きく、入所系の目標値(95%)を超えるグループホームや、通所系の目標値(85%)を超えるデイサービスがある一方で、目標値より25%少なかったグループホームや17%少なかったデイサービスがありました。目標達成できなかった事業所はその原因を分析し、次年度の改善に繋げることが喫緊の課題です。

その他、前年度から活用し始めたSNSなど新たな広報活動も一定の効果があったため、今後も広報誌と併せて充実できたらと思います。

2. 事業実施状況

(1) 会務の運営

ア 理事会の開催

第1回 理事会（令和3年5月26日） 於 三和荘

- 1 理事長専決事項の報告について
- 2 令和2年度事業報告及び決算報告について
- 3 令和2年度事業及び決算報告に関する監事監査結果について
- 4 運営規程の改定について
- 5 評議員会の招集について
- 6 評議員選任・解任委員の選任について
- 7 評議員候補者の推薦について
- 8 評議員選任・解任委員会の招集について

第2回 理事会（令和3年6月15日） 於 三和荘
議 題

- 1 理事長の選任について
- 2 第三者委員の選任について
- 3 運営規程の改定について

第3回 理事会（令和3年11月4日） 於 三和荘
議 題

- 1 理事長専決事項の報告について
- 2 エレベーター設備の改修工事について
- 3 予算の補正について
- 4 運営規程の改定について
- 5 就業規則の改定について

第4回 理事会（令和4年3月14日） 於 三和荘
議 題

- 1 理事長専決事項の報告について
- 2 令和3年度指導監査の結果について
- 3 就業規則の改定について
- 4 職員の定年延長と55歳を超える職員の昇格と職務継続について
- 5 令和4年度事業計画と予算について

イ 評議員会の開催

定時 評議員会（令和3年6月15日） 於 三和荘

- 1 令和2年度事業報告及び決算報告について
- 2 令和2年度事業及び決算報告に関する監事監査結果について
- 3 役員（理事・監事）の選任について

ウ 評議員選任・解任委員会の開催

第1回（令和3年6月4日）於 三和荘
1 評議員の選任について

エ 監事監査の実施

業務監査：令和3年5月7日 14：00～

会計監査：令和3年5月11日 10：00～

(2) 役員及び評議員の状況（令和4年3月31日現在）

ア 役員

役職	氏名	当初就任日	就任日	備考
理事長	吉田 精華	2008.5.17	2021.6.15	
理事	後藤 道彌	2003.1.1	2021.6.15	
理事	森 章三	2005.9.22	2021.6.15	
理事	荒木 哲美	2010.5.27	2021.6.15	
理事	吉田 睦子	2017.4.1	2021.6.15	
理事	後藤 卓爾	2021.4.1	2021.6.15	三和荘施設長
監事（業務）	伊藤 圭子	2018.7.1	2021.6.15	
監事（会計）	戸田 強	2016.3.18	2021.6.15	

（理事・監事任期：令和3年6月15日
～令和5年度6月定時評議員会の終結時）

イ 評議員

役職	氏名	当初就任日	就任日	備考
評議員	加藤 晃	2009.9.22	2021.6.15	
評議員	田山 智晶	2010.5.27	2021.6.15	
評議員	大津山 壽奈子	2014.5.23	2021.6.15	
評議員	東 道夫	2015.5.21	2021.6.15	
評議員	大野 敏子	2017.4.1	2021.6.15	
評議員	藤井 美千代	2021.6.15	2021.6.15	
評議員	篠原 美保	2021.6.15	2021.6.15	

（評議員任期：令和3年6月15日
～令和7年6月定時評議員会終結時）

(3) 令和3年度実施事業等

- 4月1日 辞令交付
- 5月1日 三和荘永年勤続者表彰（10年4名）
- 5月7日 業務監査
- 5月11日 会計監査
- 5月21日～6月末 新型コロナウイルスワクチン接種（1回目・2回目）
特別養護老人ホーム・グループホーム・ケアハウス
入所者及び職員
- 5月26日 理事会
- 6月4日 評議員選任委員会
- 6月13日 特養 父母の会
- 6月15日 評議員会
理事会
- 6月26日 福祉の就職フェア 参加
- 6月29日 社会福祉法人変更登記（資産総額の変更・理事長の変更重任）
- 7月13日～15日 フィールドスタディ（熊本学園大学付属高等学校）受入
- 8月13日 中野紀代子氏より寄付受け
【特養入所者 岡村了子氏（R3.7.23 没）ご家族】
- 9月12日 敬老会（特別養護老人ホーム三和荘）
- 9月27日 三和荘消防訓練
- 10月20日 フィールドスタディ（熊本市立千原台高等学校）受入
- 11月4日 理事会
- 12月2日 熊本市実地監査（法人）
- 12月12日 特別養護老人ホーム三和荘 クリスマス忘年会
株式会社大野商事様よりクリスマスケーキ52個寄贈
- 12月20日 グループホーム介護ソフト導入（LIFE対応機能追加）
令和3年度熊本県介護職員勤務環境改善支援事業費
（ICT導入）補助金
- 12月28日 熊本市書面監査（特別養護老人ホーム・ケアハウス）
- 1月16日 JA熊本（くまもと売れる米づくり本部）米100kg寄贈
- 1月27日 令和3年度「熊本市子育て支援優良企業」認定
- 2月1日～28日 新型コロナウイルスワクチン接種（3回目）
特別養護老人ホーム・グループホーム・ケアハウス
入所者及び職員
- 2月16日 移動式リフト2台導入（特別養護老人ホーム）
令和3年度熊本県介護職員勤務環境改善支援事業費
（介護ロボット）補助金
- 3月14日 理事会
- 3月18日 三和荘消防訓練・洪水土砂災害訓練
- 3月19日～29日 三和荘 エレベーター改修工事
- 3月23日～30日 三和苑デイサービスセンター業務停止
新型コロナウイルス感染症クラスター発生のため

3. 施設福祉部

令和3年度の特別養護老人ホームでは、自立支援・認知症ケア・経口維持支援・おむつ外し・看取り・多職種連携の6つの中心的なケアを大切に、サービスの質の向上に努めてまいりました。昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の予防対策を行い、職員一人ひとりが感染予防策を意識し早期に対応することで、特養職員や職員家族に数名の罹患者が出ましたが、施設内への新型コロナウイルスの侵入を防ぐことができています。年間行事も感染予防の観点からご家族の参加は控えていただき、ご利用者と職員だけで行いました。行事の様子はオンライン（YouTube）を活用して見ていただくようにしました。また、コロナ禍で外出がほとんどできなかったため、グループ活動や個別の活動（散歩や製作活動等）を充実させ、その様子を毎月の「三和荘便り」に載せることができました。面会も熊本の感染レベルに合わせて対応をしました。

ノーリフティングケアの定着は、ノーリフティングケアの勉強会を定期的に行い、職員の理解・意識改革を図ることができています。また、介護ロボット等の物品が充実したことで、ご利用者にあった福祉機器を使用することが定着し、ご利用者・職員共に身体の負担軽減に繋がっています。外部講師による2期生の研修も終了し、現在は1期生・2期生を講師として3期生・4期生の指導・育成を行っており、職員全体でノーリフティングケアへの意識向上に繋がっています。

認知症ケアについては、各グループ会議で担当を決め、認知症についての勉強会を行いました。認知症の種類等の基本的なこと、ケアについて、事例を通しての勉強会を行う事で、認知症への理解を深めることができました。

また、看護職を中心に「褥瘡0（ゼロ）」を目指して多職種で取り組み、褥瘡の改善に努めました。なかなか「褥瘡0」を達成することができていませんが、どのようにしたら褥瘡ができるのか一人ひとりが意識し、皮膚状態の確認や定期的な除圧を行うことができています。今後も定期的に会議等を開き、褥瘡ケアについて周知徹底を図ります。

看取りについては、今年度は6名の方を看取ることができました。24時間の日課表を作成し多職種で看取りケアに取り組みました。面会はコロナ禍であったため、ご家族にも感染予防の協力を得て行いました。人数制限・時間制限もありましたが、「このような形でも合わせてもらってうれしい」とご家族からお言葉をいただき、最期の時までご家族の思いに寄り添えたのではないかと思います。

事故防止にも取り組みました。前年度は服薬漏れが6件あり、今年度も8月までに4件ありましたが、配薬の際に一人ずつ入れるタイプのケースを使用するように変更してからは服薬漏れすることがなくなりました。また、介助者が原因である事故が3件起こっています。その都度検討会を行い、再発防止に努めました。

特養の利用率については年間平均97.1%で、95%に満たない月はふた月でした。今年度は退所者が12名おられました。待機者の状況把握を定期的に行う事で、退所後から2週間以内の入所を心掛けました。

ショートステイの利用率は、新型コロナウイルス感染症予防のために新規利用を控えたため平均25.4%となりました。今後も居宅支援事業所との良好な関係作りに努めてまいります。

人員確保の取り組みとして、昨年度に引き続きエルダー・メンター制度を採り入れ、中途採用職員へOJTを行いました。思うような効果はまだ得られませんでした。離職防止と共に今後の課題です。

(1) 令和3年度 特別養護老人ホーム三和荘事業報告

①ご利用者一人ひとりに優しく接し、メリハリのある生活を提供します

三和荘接遇マニュアルを基に、身だしなみ、言葉遣い、挨拶、態度、表情について、接遇委員会で毎月の目標(スローガン)を掲げ、取り組みを行った。言葉遣いに関しては、時々不適切な言葉遣いが見受けられたが、声かけを行いながら訂正できたと思う。ご利用者の整容については、月2回整容週間を設け、チェックシートを活用し行うことが出来た。メリハリのある生活の提供については、カラオケや小グループの活動は実施出来たが、映写会の実施が難しかった。次年度は、実施方法を見直し計画していく。

ショートステイ利用時の自立支援や個別機能訓練については、生活リハビリを中心に、在宅へスムーズに戻っていただけるように支援出来た。

②ノーリフティングケアの継続と、介護技術の向上を図ります

全職員が、ノーリフティングケアの基本について理解し、習得することについては、外部講師による2期生の研修も終了し、現在1期生・2期生を講師として、3期生・4期生の指導・育成を行っているが、人員不足により研修時間の調整が難しいため技術面の習得は遅れ気味である。しかし、福祉用具の充実・使用の定着により、職員の介護負担の軽減や、ご利用者の拘縮等の二次障害予防には繋がっている。認知症に関する勉強会については、各グループ会議で担当を決め行った。認知症の基本やケア方法、事例を通してのケアについてなど、認知症への理解を深めることができた。

中途職員に対し、エルダー・メンター制度を活用し、OJT研修を行い、指導・育成に努めたが、思ったような効果は得られなかった。

③職員満足度向上のため、リフレッシュ休暇(3日連続有給休暇)の取得を促します

常勤勤務者へのリフレッシュ休暇(3日連続有給休暇と公休とで連続5日休)の取得については、計画的には出来なかったが、全常勤勤務者が取得することができた。また、タブレットの導入で、記録のペーパーレス化ができ、時間の短縮につなげることができた。インカムの導入により、情報の共有・業務の効率化は少しずつではあるが出来てきている。

④特養年間利用率95% ショートステイ年間利用率50%を目指します

今年度の特養の利用率は、平均97.1%で、95%に満たない月はふた月だった。毎月の入所判定会で、次期入所に向けて第5順位まで待機者を確定することができ、退所後2週間以内の入所調整がほぼ出来た。ご利用者の健康管理については、普段の感染症対策に加え、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策を徹底し行った。37.5℃以上の発熱が見られた際には、感染隔離を行い医療機関での抗原検査を行った。重症化予防として、早期発見・早期治療に努めたが、誤嚥性肺炎や怪我による入院があった。しかし、長期入院にならないように小まめに病院の連携室と連携を図り、情報の収集を行ったことで、長期入院は防ぐことができた。

ショートステイの利用率は、新型コロナウイルス感染症予防で新規利用を控えたことと、定期利用の方の入院等があったため、平均25.4%にとどまり、目標の達成には至らなかった。

ア 入所者年齢別内訳

令和4年3月31日現在

年齢	69歳以下	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上	合計(人)
男	1	1	0	1	1	2	2	0	8
女	0	1	4	5	17	7	8	2	44
計	1	2	4	6	18	9	10	2	52

平均年齢 87.1歳

イ 地域別入所者内訳 熊本市 52名

ウ 入所者身体状況

	全面介助	一部介助	認知症	入院者
男	0	8	8	1
女	15	29	42	2
計	15	37	50	3

車椅子使用者 39名 手引き歩行 1名
 歩行器使用者 7名 歩行自立 2名
 杖使用者 3名

エ 要介護度別状況

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男	0	0	2	6	0	8
女	1	0	8	16	19	44
計	1	0	10	22	19	52
	2.0%	0.0%	19.2%	42.3%	36.5%	100.0%

平均要介護度 4.1

オ 入退所状況

	入所	退所
男	2	2
女	12	10
計	14	12

(2) 短期入所生活介護利用状況

令和3年度

	収容力(A)	延利用者数(B)	利用率(B)/(A)	実利用者数	特例利用者	
	(注1)	(注2)	(注3)	(注4)	延人数	実人数
3年 4月	540	159	29.4%	18	0	0
5月	558	128	22.9%	18	0	0
6月	540	158	29.2%	17	0	0
7月	558	135	24.1%	17	0	0
8月	558	147	26.3%	18	0	0
9月	540	125	23.1%	22	0	0
10月	558	161	28.8%	19	0	0
11月	540	106	19.6%	18	0	0
12月	558	143	25.6%	19	0	0
4年 1月	558	168	30.1%	21	0	0
2月	504	122	24.2%	13	0	0
3月	558	120	21.5%	17	0	0

注1:「収容力」=ショートステイ用に整備したベッド数×月の日数

注2:「延利用者数」とは1日あたりの利用者数を1ヶ月間積み上げた人数

注3:「利用率」小数点2位以下切り捨て

注4:「実利用者数」とは1ヶ月間に利用した人の実数

「特例利用者」の延人数とは1日あたりの特例利用者数を1ヶ月間積み上げた人数

「特例利用者」の実人数とは1ヶ月間の特例利用者の実数

	最多利用日の延利用者数	最小利用日の延利用者数
3年 4月	9	3
5月	7	2
6月	9	1
7月	8	1
8月	9	1
9月	8	2
10月	8	2
11月	5	1
12月	7	0
4年 1月	8	0
2月	7	2
3月	9	1

令和3年度 短期入所日々入所者数

4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金		
利用	3	4	4	4	4	3	5	5	4	6	7	7	5	6	6	3	6	5	6	4	4	5	5	7	8	9	7	6	6	5		
																															159	
5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
利用	6	6	6	4	3	3	3	3	4	4	3	3	4	2	3	3	6	5	5	5	4	6	7	7	5	4	3	2	4	2	3	
																															128	
6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水		
利用	2	2	3	5	9	8	8	4	5	4	4	6	6	7	3	1	4	5	8	6	6	4	5	6	5	6	7	7	6	6		
																															158	
7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
利用	3	1	4	5	5	2	3	4	5	5	4	5	3	3	5	4	7	6	6	3	3	3	3	6	7	8	5	6	5	3	3	
																															135	
8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
利用	3	5	4	6	7	8	8	9	8	7	6	5	5	5	5	6	3	3	3	3	3	4	5	3	2	4	4	5	4	3	1	
																															147	
9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木		
利用	2	2	2	4	5	7	5	4	3	2	4	3	6	4	5	5	4	8	7	7	3	3	5	3	4	4	5	3	3	3		
																															125	
10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
利用	3	4	4	6	5	7	6	6	7	7	7	5	6	8	7	7	6	7	7	6	5	2	5	5	5	5	2	3	3	4	3	3
																																161
11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火		
利用	1	2	3	4	2	3	3	3	4	4	3	3	5	4	4	3	3	5	5	4	4	5	4	2	3	4	5	5	3	3		
																															106	
12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
利用	4	4	3	6	6	6	4	2	4	2	5	3	4	4	5	6	6	6	6	7	5	7	6	3	4	4	6	6	6	3	0	
																																143
1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
利用	0	0	0	1	3	4	4	8	7	8	8	6	6	5	7	7	8	8	8	7	5	6	6	6	4	7	7	7	6	5	4	
																															168	
2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28				
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月				
利用	2	2	3	3	6	6	7	7	6	6	4	5	2	2	3	2	4	4	6	6	7	5	6	5	2	4	4	3				
																															122	
3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
利用	2	3	5	4	4	4	4	4	4	6	7	9	7	7	6	7	8	3	3	2	2	1	1	1	1	2	2	3	2	3	3	
																															120	

※ 令和3年4月1日～令和4年3月31日までの1日平均入所者数

$$1,672 \div 365 = 4.5 \text{ 人}$$

施設の令和3年度の入所者数の平均値 50.5 人

短期入所の令和3年度の利用者数の平均値 4.5 人

施設と短期入所の合算 55.0 人

令和4年度必要な直接処遇職員の員数 $55.0 \div 3 = 18.4$ 人

(看護職員＋介護職員)

看護職員 2人＋1人以上

夜勤職員 2人＋1人以上

(3) 令和3年度 月別行事報告

月	日	行事名	参加人数	家族参加者数	ボランティア数
R3.4	22	西グループ「たこ焼きパーティ」	14	0	0
5	24	西グループ「パンケーキパーティ」	14	0	0
6	13	父母の会	56	0	0
	24	西グループ「岬鮎」	10	0	0
7	12	西グループ「そうめん流し」	14	0	0
8	2	西グループ「夏だ！涼しくなろう！みんなでアイスクリームパーティだ！」	19	0	0
	19	合同グループ「夏を楽しもう！すいか割、おやつはかき氷！」	53	0	0
9	12	敬老会	54	0	0
10	15	西グループ「レッツゴー！ゆめマートへ買物だあ！」	1	0	0
	19	西グループ「スイートポテト作り」	16	0	0
	19	合同グループ「ボーリング大会」	24	0	0
	26	合同グループ「買物」	1	0	0
12	6	西グループ「今年最後の買物だあ！いざ、ゆめマートへ」	1	0	0
	8	合同グループ「買物(ゆめマート)」	1	0	0
	12	餅つき・忘年会	55	0	0
	14	西グループ「パンケーキパーティ」	14	0	0
R4.3	14	西グループ「おしるこパーティ」	18	0	0

(4) 令和3年度 実習受入実績報告

団体名	受入人数	受入延べ日数
城北高等学校医療福祉科	2	6
大原保育医療福祉専門学校熊本校	2	30
熊本YMCA学院	2	6
合計	6	42

4. 在宅福祉部

地域包括支援センター：令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の行事や元気クラブなど様々な活動が自粛、中止され地域への活動も低下しています。自立支援型地域ケア会議はリモートで開催しましたが、地域の方々と顔を合わせる事がほとんどなく、地域づくりが思うように進まない1年でした。その状況下、相談件数は4800件ほどあり認知症者による家族の介護負担や虐待、医療等の相談が多くあり、西区高齢福祉課と情報を共有しながら関係機関と連携して対応しています。その他、認知症講演会や地域の研修会、認知症サポーター養成講座など、新型コロナウイルス感染症が落ち着いている時期を見計らい開催し、地域への活動を行いました。今後も感染症対策を行いながら実施に向け取り組んでいきたいと思ひます。

三和荘居宅介護支援事業所：令和3年度の重点目標に基づき「認知症ケア」では、各個人で勉強を行ったり研修に参加したりして知識を高めました。「ケアマネジメントの質の向上」では適切なケアマネジメント手法の研修を受け、アセスメント力は高まり質の向上ができました。「倫理綱領に基づいた対応」と「接遇の向上」では専門職として自覚しながら行い、意識を高めることができました。その他、業務マニュアルを実施しながらより使いやすいものに改善し、情報を共有して効率化を図りました。課題としては、感染症・災害時の対応で事業所内の活動（BCP計画）が不十分であったので、改善し取り組んでいきたいと思ひます。

三和荘ケアハウス：令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策に力を入れ取り組んできました。ケアハウスは高齢の方が多く長く自立した生活が継続できるようにするためには、入居者の日頃の健康状態の把握に努め、状態の変化や急変時に早期に対応できるようにご家族やケアマネジャーなどの関係者との情報の共有に力を入れています。そのためには入居者と日頃からコミュニケーションがスムーズに取れるような信頼関係を構築するように努め、ラジオ体操や機能訓練など自らが積極的に参加でき、洗濯や掃除など自分でできることは意欲的に継続し、元気で暮らせる「居場所づくり」を提供できるように今後も努めていきたいと思ひます。

三和荘訪問介護事業所：令和3年度も継続してコロナ感染症対策を実施しながら業務にあたりました。利用者への自立支援の視点で、一緒に料理を作る、掃除をするなど、一緒に作業をすることで自立への意識を深めてもらうよう取り組みました。3回発行した広報誌の記事にその模様の写真を掲載し、各利用者で紹介し促すと行動される方もいました。その中で心身状態を観察し健康面の把握ができるように努めました。また、利用者への接遇についてはヘルパー会議で定期的に学習会を行い、言葉づかいや態度等を共有して援助中に応用するように努めました。

グループホーム三和の邑：今年度も職員の働きやすい環境づくりに努め、5日以上の有給消化や希望休が取れるようにしました。コロナ感染症対策も行い換気や消毒等、予防に努めました。目標として掲げた入居率95%も達成できました。体調管理をしっかり行うことで退所される方も少なく、退所されても3週間程で次の入居者も決まりましたが、困っている方をスムーズに入所に繋げるために待機者の現状把握、入居の意向確認など早期に対応できるように今後も努めていきたいと思ひます。

三和荘通所介護事業所：令和3年度は4つの目標を立て取り組みました。①適

切な言葉づかいを徹底し接客レベルを向上するために、事業所での朝礼時に必ず場面に応じた言葉づかいをするように復唱しました。また、正しい言葉づかいを出し合ってリスト化し、その中から毎日3つずつの例文を全員で復唱しレベル向上に努めました。②全職員がケアプランを理解し、プランに沿った介護サービスの提供を徹底するために、利用者ごとにファイリングしていたケアプランを1冊のファイルにまとめ、ケアプランの確認がしやすくなるように工夫しました。③各職員の役割を明確にし3M（ムリ、ムダ、ムラ）の改善を行うために、入浴、食事、ホール業務、レクリエーション、看護、機能訓練、環境整備の7つの業務にそれぞれ担当を決めることで効率化が進み、3Mの改善ができました。④利用率90%を達成するとしましたが年平均利用率は68%で目標を大きく下回りました。1月中旬には職員のコロナ感染があり1週間休業しましたが、利用者には感染ありませんでした。今後も感染対策を強化し、予防に努めていきます。

グループホーム出水：今年度は魅力的なグループホーム出水であるように、ハード面、ソフト面の充実を図り計画的に行いました。ハード面では室内外の環境を整備し室内の掃除と整理整頓を行い、常にきれいに保つよう努めました。窓から見える庭先は枝を切ったり落ち葉を掃除したりと見た目もすっきりきれいになるようにして、入居者や来客の方等雰囲気の良い環境作りに努めました。ソフト面では接遇に力を入れ、日々職員間や入居者への言葉づかいと態度について意識的に行い、グループホーム会議で自分の言動を振り返るようにしました。また各職員が一つ一つの業務の委員長になり担当の視点から報告をしたり、勉強会を行ったりしてスキルアップもできました。働きやすい環境づくりも行い職員の勤務体制も年度後半に安定化につながりました。

デイサービスセンター出水：新型コロナウイルス感染症の影響で外出行事は少なかったものの、感染状況を見て少人数にて機能訓練を兼ねて近所へ散歩に行くようにし、久しぶりの外出にとっても喜ばれていました。見学者にはタブレットを活用してデイ出水の特色を紹介したり、さまざまな工夫を行ったりしたことで年度後半には利用率の向上に繋げることができました。また、介護報酬改定に伴い多職種連携して在宅生活を想定した、機能訓練の実施や入浴計画を作成しました。在宅で問題なく生活を送れるように自立支援の視点で援助を行い、科学的介護の推進のためのデータを提出するなど対応しました。

グループホーム三和苑：今年度は入退所者が相次ぎ利用率も70%と目標を下回りました。コロナ感染症対策を行いながら、処遇面では年度前期に日常生活において移動、入浴などの介助に職員2人での対応が必要な方も数名おられたため、ノーリフティングケアを実践し介護の負担軽減を図りました。後期になりその方達は順次退所されましたが、その後も入居中のそれぞれの方に合ったケアを行っています。グループホーム会議では認知症の勉強会を毎回行い、パーソンセンタードケアの理念に沿って相手の気持ちを尊重したケアができるように努め、問題行動の軽減につながっています。

三和苑デイサービスセンター：今年度も利用者と「関わるケア」の実践に努め、満足度の充実が図られるように利用者やその家族のニーズに答えるように取り組みました。認知症利用者も多くパーソンセンタードケアの理念のもと、デイ会議で認知症の勉強会を行い様々な問題行動の改善と在宅での介護軽減に結びました。コロナ感染症対策にも力を入れながら予防に努めていましたが、3月末に職員、利用者の感染者が発生し1週間休業しました。まだコロナ感染症も収束していないので今後も感染症対策をしっかり行い、再発防止に努めていきたいと思っております。

(1) 三和荘通所介護事業所

①適切な言葉遣いを徹底し、接遇レベルを向上させます

事業所での朝礼時に必ず場面に応じた言葉遣いを復唱した。普段から使っている利用者への声掛けについて職員全体で話し合いを行い、場面に応じて分類分けをし、正しい言葉遣いを出し合ってリスト化した。その中から毎日3つずつの例文を全員で復唱した。例えば、今までは「お風呂に行きましょう」と声をかけていたが、自立支援の視点から「お風呂いかがですか？」に言い換えるようにするなどの工夫を行った。この取組を行うことで、間違えた言葉を遣った時には職員同士での注意がしやすくなった。

②全職員がケアプランを理解し、プランに添った介護サービスの提供を行います

ご利用者ごとにファイリングしていたケアプランを1冊のファイルにまとめ、ケアプランの確認がしやすくなるよう工夫した。しかし、今年度はケアプランの確認までは実施したが、その内容を継続的に把握し実践するには至っていない。これからも目標達成に向け行動していきたいと考える。

③各職員の役割を明確にし、3M（ムリ・ムダ・ムラ）の改善を行います

入浴、食事、ホール業務、レクリエーション、看護、機能訓練、環境整備の7つの業務にそれぞれ担当を決め、業務改善を実施した。

担当制にすることで、今までは聞かれなかった「あれ？これスマートじゃないな」という意見をとても多く聞けるようになった。各職員の責任感も高まり、多職種とのコミュニケーションも活発になった。また、決まったことを手引きに反映することで、新人職員への指導にも役に立っている。

④利用率90%を達成します

年間利用率は68%と大きく目標を下回った。

入院・施設入所・死亡等あり、年度内14名の利用停止に対し、新規は8名であった。社会情勢の影響もあったが、営業活動の不足・広報不足等が原因にあげられる。次年度は広報紙を発行し、PR活動をするとともに、機能訓練を充実し在宅生活の維持に努めたいと考える。

ア 月別利用状況

(ア) 全対象者合計利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
日数	26	25	26	27	26	26	26	26	25	24	24	27	308	25.7
月間利用者数	54	53	55	56	58	57	56	56	52	54	49	53	653	54.4
月間延利用者数	535	545	538	570	563	555	567	532	503	391	441	539	6279	523.3
1日平均利用者数	20.6	21.8	20.7	21.1	21.7	21.3	21.8	20.5	20.1	16.3	18.4	20.0	20.4	20.4
利用率	68.6%	72.7%	69.0%	70.4%	72.2%	71.2%	72.7%	68.2%	67.1%	54.3%	61.3%	66.5%	68.0%	68.0%

(イ) 要介護度別利用状況（延利用人員）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要介護1	219	207	215	231	219	237	231	229	213	172	202	225	2600	216.7
要介護2	120	135	123	108	137	127	138	134	119	84	89	113	1427	118.9
要介護3	80	85	81	85	79	67	80	84	79	60	56	79	915	76.3
要介護4	31	34	34	39	28	27	28	7	9	4	4	5	250	20.8
要介護5	7	8	5	7	8	4	7	0	0	0	0	0	46	3.8
合計	457	469	458	470	471	462	484	454	420	320	351	422	5238	436.5

(ウ) 要支援者利用状況（延利用人員）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
事業対象者	5	4	3	5	2	4	5	3	4	0	0	0	35	2.9
要支援1	8	9	12	21	27	27	24	23	28	24	24	23	250	20.8
要支援2	65	63	65	74	63	62	54	52	51	47	66	94	756	63.0
合計	78	76	80	100	92	93	83	78	83	71	90	117	1041	86.8

イ 三和荘通所介護事業所における業務の取組み

①送迎

送迎ボード・カードを用いて人数や送迎時間を細やかに考慮した配車を行った。不定期利用のご利用者への対応も行い、スケジュール管理も担当ケアマネジャーと連携しミスのないよう努めた。個別の送迎時間への対応も継続して実施した。助手席への乗降に足台を準備して事故防止に努めた。車両乗り込みの前に体温測定を行い、新型コロナウイルス感染対策を行った。

②健康チェック

血圧・体温・脈拍を測定してその日の健康状態を把握するのはもちろんのこと、自宅での状態把握にも努めて新型コロナウイルス感染症対策を行った。急変時にはご家族やケアマネジャー等の関係者と連絡をとり、病院受診などの早期対応に努めた。服薬に関しては、ご本人の名前の確認を行い、誤薬予防を行った。

③レクリエーション活動

新型コロナウイルス感染症予防のため、荘外活動を自粛したこともあり、施設内で実施できる活動を工夫した。（桜花見茶会、職員、ご利用者が出し物をする敬老会など）

④食事

昨年から引き続き誤嚥予防のため食前に口腔体操を実施した。また、野菜から食べることが血糖値の上昇を抑えることや汁物から口に入れることが誤嚥防止になるなど啓発を行った。

ご利用者の要望に応えるために、調理委託業者を交えた給食委員会を毎月実施して連携を図り対応した。（3ヵ月に一度）

イベント食の際には、食事準備のデモンストレーションも実施した。ご利用

利用者からも「より美味しく感じられる」との言葉が上がっている。

⑤入浴

自宅での入浴を希望されているご利用者のアセスメントを実施し、ケアマネジャー含めた多職種連携にて、希望の実現ができた。また、個浴槽に簡易グリップを装着することで、ご利用者の安全性を向上させた。

⑥機能訓練

ケアプランに沿った機能訓練目標を設定し、カンファレンスを実施し、多職種による会議を実施した。また、バーサルインデックス (BI) を活用して、よりご利用者の現状把握に役立てている。

⑦静養・物理療法・マッサージ

整容スペースの布団を1組減らし、感染対策に努めた。物理療法の順番を決めトラブル防止に努めた。使用箇所の消毒も徹底し、新型コロナウイルス感染症予防に努めた。

⑧生活相談

精神的な不安や経済的な不安など、多くの個別課題(悩み等)を持つ方もおられ、事案により、じっくりと傾聴し、内容によってはご家族や居宅担当者、そのほか関係機関とも適宜連絡・調整を行い、その課題解決や不安の軽減に努めた。

⑨通所介護計画書の作成・実行

計画書への署名捺印の不備をなくすため、ケアプランを事前に頂き、担当者会議時には通所介護計画書を持参し、同時に署名捺印をして頂く工夫を行った。個別機能訓練計画書も同様に行った。また各計画書の職員への周知も重要視し、職員名簿を活用し周知に努めた。達成度は70%ほどだった。

⑩その他

地域ケア会議に作業療法士が参加し、地域福祉に貢献することができた。

(2) グループホーム三和の邑

①接遇のスキルアップを図り、ご利用者、職員が心地よく過ごせるようにします

接遇マナーチェックシートを作成し、8月から自己評価を行ってきたが、徐々に自己評価をする職員が少なくなり、接遇に対しての意識が薄れてきていた。ご利用者の後見人より職員の応対に対して苦情があり、職員全員に周知し、検討を行い対応していった。職員の意識は徐々に変化はしていったが、不十分の為今後も継続していく

②認知症ケアの質の向上を図ります

事業所会議にて2か月おきに勉強会を行い、各職員に担当してもらい、勉強会の内容を考えてもらったことで、認知症に対しての対応に変化が出てきた。

③職員間のチームワーク向上に努め、より働きやすいグループホームにします

前年度と同様、職場の雰囲気は明るく笑顔がある職場になっていたが、特定の職員同士のトラブルや、特定の職員がいることによって円滑に業務が進まなかったことがあった。

希望休取得はほぼ達成した。年次有給休暇取得については、年5日以上取得できた。

④利用率 95%を目指します

ご利用者の体調管理を職員、関係医療との連携にて維持できたことで、利用率は 95.0%以上あり目標を達成することができた。しかし、ご利用者の方々の高齢化が進み、体調不良にて入院される方もおられたため、今後も体調管理に努めていく。

待機者に対して、現状把握、意向確認を行ったが、すぐに入所される方がおらず期間が開いてしまったが、目標は達成できた。

ア ご利用者の状況

令和 4 年 3 月 31 日現在

性 別	男性 1名 女性 8名
平均年齢	89.67 歳 (最高年齢 96 歳、最低 75 歳)
認知症の分類	アルツハイマー型認知症 7名 レビー小体型認知症 1名 前頭側頭型認知症 1名
認知症の程度	I…0名 IIa…3名 IIIa…6名
要介護度	要支援 2…0名 要介護 3…6名 要介護 1…0名 要介護 4…1名 要介護 2…1名 要介護 5…1名 (平均要介護度 3.22)

退所者 1名 退所日 R3. 6. 29

入所者 1名 入所日 R3. 7. 23

ウ 月別行事実績

月	行 事
4月	健康診断、鯉のぼり見学・食事会(三和荘敷地内)
5月	父母の会(お寿司)、コロナワクチン接種(1回目)
6月	紫陽花ドライブ(住吉神社)、コロナワクチン接種(2回目)
7月	七夕(食事会・レクリエーション)、食事(土用丑の日)
8月	夏祭り(三和の邑)、
9月	敬老会(巻き寿司作り)
10月	運動会(三和の邑)、花火大会(三和荘芝生)
11月	買い物ツアー(ゆめタウン浜線)
12月	クリスマス・忘年会(サンドウィッチ作り)
1月	初詣(大塘神社)、食事会(お寿司)
2月	節分・恵方巻、バレンタイン(おやつ作り)
3月	ひな祭り

1ヶ月2回・・・訪問看護(たんぼぼ)訪問

エ 会議実績

事業所会議・・・毎月1回 第1水曜日(18:00~19:00)

運営推進会議・・・2か月に1回(奇数月)

R3. 11. 26にまほろば館にて実施したが、その他は、新型コロナウイルス感染症予防のため書類にて行った。

オ 勉強会

歯科勉強会・・・月1回

身体拘束廃止及び高齢者虐待防止勉強会・・・2か月に1回

(3) 三和荘訪問介護事業所

① ご利用者の尊厳を大切にされたサービスを実践します

ご利用者の満足度を上昇させるために、聞き取り調査を行ったり、接遇についての学習会を行ったりして職員の意識を高めることでご利用者との信頼関係がより、良好になるように努めた。

ヘルパー会議では、ご利用者の身体面や精神面に変化が見られないか確認を行うと共に、プランに沿ってサービスが提供されているのか再確認し、状況に応じてケアマネジャーに報告等行うよう努めた。

② ご利用者個々の状況に応じ、他職種連携での専門性に基づいたサービス提供を行います

ご利用者の日々の様子を観察し、体調の変化や転倒によるケガなど、報連相(ほうれんそう)の徹底と情報の共有ができるように努めた。

③ 意見が言いやすく相談しやすい環境をつくり、働きやすい職場環境をつくります

急な休みにも対応できるよう代行を配置し、安心できる職場環境を整えるよう努めた。(感染症などの疑いがある場合は速やかに報告を行い対応した)

職員の体調確認や精神的負担を軽減するために、普段からコミュニケーションを図り、相談しやすい環境を心掛けるように努めた。

④ 月間援助件数が 240 件を維持継続できるようにします

毎月の派遣予定表の数を減らさないよう努力したが、入院するご利用者や施設入所などが増えたため達成できなかった。

入院中のご利用者の派遣時間帯に、期間限定で支援を追加したり、新規依頼があり長期での契約が難しい場合でも、一時的に入院中のご利用者の時間帯に利用できるよう提案したりして、利用率の安定を図るよう努めた。

ご利用者が安全に在宅生活を継続できるように、病気や転倒リスクを軽減するため、必要事項の確認や、環境整備などを行った。

ア ホームヘルパー派遣状況

区分	派遣世帯数		派遣回数				派遣時間			
	要介護	要支援	要介護			総合事業	要介護			総合事業
			身体介護	生活援助	身体生活		身体介護	生活援助	身体生活	
4月	22	21	39	76	30	111	22.16	57.75	28.00	77.75
5月	20	22	37	81	28	103	22.16	61.08	26.25	72.25
6月	20	20	38	62	26	103	21.41	44.50	23.50	71.50
7月	19	20	39	65	27	88	20.75	46.50	25.25	60.50
8月	21	18	35	74	27	78	20.16	54.25	25.00	53.50
9月	19	17	35	60	26	83	54.25	44.25	23.75	56.00
10月	19	16	33	57	26	72	20.00	42.03	23.75	48.75
11月	18	16	33	75	26	74	20.50	56.41	24.00	50.50
12月	22	16	32	76	21	72	20.08	59.50	18.50	48.00
1月	22	16	32	84	13	72	20.75	65.30	12.00	48.25
2月	22	16	30	70	16	70	16.75	55.83	14.75	47.50
3月	21	15	35	74	15	124	21.50	59.41	14.00	56.25
合計	245	213	418	854	281	1050	280.47	646.81	258.75	690.75
平均	20.42	17.75	34.83	71.17	23.42	87.50	23.37	53.90	21.56	57.56

イ 熊本市高齢者生活援助事業（R3年4月～）

○ 実績なし

ウ ヘルパー会議実施・学習会状況

開催日時：毎月第3水曜日 16:00～17:00

参加者：後藤きよみ 松田佳代 松永智子 建石富美子 佐藤朝美

4月	5月	6月	7月
・年間方針及び取り組み	食中毒・救急法	接遇・クレーム	リスクマネジメント
8月	9月	10月	11月
接遇の心得	今年度の取り組みについて	権利擁護	サービス記録の書き方
12月	1月	2月	3月
クレームについて	コロナ感染拡大に伴い 派遣先の振り分け	接遇について	コロナウイルス感染拡大 につき中止

(4) 三和荘居宅介護支援事業所

①傾聴を基本とした話しやすい雰囲気づくりを心掛けます

倫理に基づいて、各自業務を行った。接遇マニュアルを基準とした自己評価を年2回実施、高評価を維持出来ている。倫理については、勉強会を年2回行った。

今後も定期的に、接遇マナー・倫理の勉強会を行っていく。

②認知症の方への対応では、意識して自己決定の尊重を心掛けます

「認知症ケアと予防について」は、令和3年度の取り組み課題に取り上げ、独自で調べたり、研修会に参加したりして、知識を高めることができた。

また、事例検討会では、他居宅事業所と年4回勉強会を行い、様々な事例を通して支援方法を学び、情報交換をすることができた。

認知症ケアは地域課題として、今後も事業所内で取り組んでいく。

③お互いに仕事について協力体制を整えます

週1回、居宅会議の中で情報交換を密に行い、担当以外のご利用者にも対応出来るようにした。

お互いに業務に支障なく休暇が取れるように心掛けた。

④介護支援専門員1名あたり38件（件数換算後）程度についての支援を目指します

月35件以上（90%）確保できた。

各関係機関と連携し、ご利用者の在宅支援に取り組んだが、コロナ禍で受入れが難しい状況が続いた。今後も、様々な情報を収集しながら、ご利用者が安心して生活できるように支援していく。

ア 担当者会議実績（件）

4月	10	7月	11	10月	9	1月	6
5月	4	8月	10	11月	9	2月	4
6月	10	9月	4	12月	11	3月	7

イ 要介護別利用者数

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
52	27	18	12	2

ウ 介護予防への移行者数（人）

4月	1	7月	0	10月	1	1月	0
5月	0	8月	0	11月	0	2月	0
6月	0	9月	1	12月	2	3月	1

エ 令和3年度ケアプラン作成年間実績（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	74	75	77	75	78	74	75	74	72	66	62	64	866
地域密着型通所介護	18	18	19	19	21	20	21	20	20	16	17	17	226
通所リハビリ	17	17	19	20	20	18	16	13	12	14	14	16	196
訪問介護	40	44	49	49	49	48	44	43	42	37	40	44	529
訪問入浴	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	7
訪問看護	14	14	13	13	14	13	14	13	11	11	13	13	156
訪問リハビリ	0	0	0	2	3	2	1	0	0	0	0	0	8
認知症対応型通所介護	3	3	3	3	2	2	3	3	4	4	4	4	38
福祉用具貸与	71	69	71	73	79	73	76	71	68	64	66	70	851
短期入所生活介護	11	11	11	12	15	15	14	14	13	15	11	16	158
短期入所療養介護	0	0	1	4	1	1	2	3	3	1	1	1	18
福祉用具購入	0	0	0	2	1	1	1	0	1	0	1	1	8
住宅改修	0	0	0	0	2	1	1	0	1	0	1	1	7
新規契約	0	3	1	3	2	1	1	0	2	2	2	2	19
実件数	110	109	114	116	119	113	113	110	107	101	104	106	1322

(5) 地域包括支援センター

① 来所相談の方や地域との関わりの中で、いつも気持ちの良い対応を心掛けます

電話の応対や相談対応など、目標を設定し改善方法を検討した。3か月に一度振り返りの場を設けたことで、言葉の使い方やイントネーション、折り返しの確認など適切な対応を行えた。また、わからないことを曖昧にせず、包括内で検討して返答することで正確な情報を伝えることができた。

② 来所相談や電話相談時にどの職員でも適切な対応ができるスキルを身につけます

全職員が適切な対応ができるよう、通常業務とは違う対応をしたケースについては、朝礼で報告して情報の共有を行った。情報共有を行うことで、似たよ

うなケースでの対応がスムーズに行えるようになった。今後も朝礼での報告を継続し、自分だったらどのように対応するのかを検討しながらスタッフ全員のスキルアップにつなげていく。

③チーム力でストレスを軽減した働きやすい職場環境作りに努めます

担当職員が不在時にどの職員でもケース対応しやすいよう、対応に配慮が必要な方等を名簿に色分けし分かりやすくした。さらに連絡のつきやすい時間帯など、細かい情報を基本情報に入力したことで他職員も対応しやすくなった。名簿作成を行ったことで、職員がお互いを気にかけて働きやすい職場づくりへの意識を高められた。

④生活支援コーディネーター業務の開発と強化で、住みよい地域づくりに携わります

町内ごとの実情や課題を把握し取り組みを行う方法として、管理者や各職種で進捗確認と今後の進め方を協議した。その結果、整理や確認ができスムーズに行えた。コロナ禍で行えなかった取り組みもあるが、つどいの場を一か所立ち上げることができた。

ア 介護予防マネジメント

- ① 利用者数 要支援1 1161人 総合事業のみ利用 350人
 要支援2 1169人 総合事業のみ利用 240人
 総合事業のチェックリスのみの事業対象者 118人
- ② 介護予防サービス計画作成の委託状況
 地域包括支援センターで作成 1600人
 居宅介護支援事業所に委託 730人
- ③ 介護予防サービス計画の委託先 27事業所

イ 総合相談・支援業務の実施状況

① 相談件数（延べ件数）

項目	相談の形態						合計		
	電話		来所		訪問		新規	継続	計
	新規	継続	新規	継続	新規	継続			
1) 在宅福祉生活に関する事	13	57	3	10	0	21	16	88	104
2) 介護保険に関する事	69	1,752	24	77	23	1,714	116	3,543	3,659
3) 保健医療に関する事	10	258	1	6	2	44	13	308	321
4) 認知症に関する事	5	59	0	3	2	23	7	85	92
5) 権利擁護(虐待関連含む)に関する事	2	80	1	10	0	36	3	126	129
6) 家族問題に関する事	2	19	1	8	0	5	3	32	35
7) 経済的な問題に関する事	0	16	0	3	0	3	0	22	22
8) 居住環境に関する事	1	8	0	0	0	1	1	9	10
9) 在宅高齢者福祉事業に関する事	2	11	2	0	3	2	7	13	20
10) 包括的継続的ケアマネジメント支援業務に関する事	2	130	0	17	0	57	2	204	206
11) その他	2	84	0	11	0	16	2	111	113
合計	108	2,474	32	145	30	1,922	170	4,541	4,711

② 新規相談者の内訳

項目	年齢区分					合計
	64歳以下	65～74歳	75～84歳	85歳以上	不明	
1) 在宅福祉生活に関すること	0	3	7	6	0	16
2) 介護保険に関すること	8	17	59	30	2	116
3) 保健医療に関すること	2	4	3	2	2	13
4) 認知症に関すること	0	1	4	2	0	7
5) 権利擁護(虐待関連含む)に関すること	0	2	0	1	0	3
6) 家族問題に関すること	0	0	2	1	0	3
7) 経済的な問題に関すること	0	0	0	0	0	0
8) 居住環境に関すること	0	1	0	0	0	1
9) 在宅高齢者福祉事業に関すること	0	2	3	2	0	7
10) 包括的継続的ケアマネジメント支援業務に関すること	0	0	0	1	1	2
11) その他	1	0	1	0	0	2
合計	11	30	79	45	5	170

区分	延べ件数			合計
	電話	来所	訪問	
本人	12	4	17	33
配偶者	7	7	1	15
子ども	27	15	0	42
兄弟	0	0	1	1
親族	1	0	2	3
地域住民(自治会等)	2	0	0	2
民生委員	4	1	0	5
ケアマネージャー	20	2	7	29
事業者・施設等	12	0	0	12
その他	24	2	2	28
合計	109	31	30	170

③ 介護保険に関すること(延べ件数)

項目	相談の形態						合計		
	電話		来所		訪問		新規	継続	計
	新規	継続	新規	継続	新規	継続			
① 申請等の手続きに関すること	42	142	13	6	14	142	69	290	359
② 認定内容に関すること	2	95	0	1	0	32	2	128	130
③ サービス内容に関すること	2	55	1	2	2	24	5	81	86
④ 保険料・利用料に関すること	0	17	1	1	0	4	1	22	23
⑤ その他	23	1443	9	67	7	1512	39	3022	3061
合計	69	1752	24	77	23	1714	116	3543	3659

④ 権利擁護に関すること(延べ件数)

項目	相談の形態						合計		
	電話		来所		訪問		新規	継続	計
	新規	継続	新規	継続	新規	継続			
① 成年後見制度に関すること	0	5	0	0	0	4	0	9	9
② 老人福祉施設等への措置に関すること	0	1	0	1	0	0	0	2	2
③ 虐待への対応に関すること	2	50	1	8	0	20	3	78	81
④ 困難事例への対応に関すること	0	16	0	1	0	6	0	23	23
⑤ 消費者被害の防止に関すること	0	3	0	0	0	3	0	6	6
⑥ その他	0	5	0	0	0	3	0	8	8
合計	2	80	1	10	0	36	3	126	129

⑤ 在宅高齢者福祉事業に関すること

項目	電話		来所		訪問		合計			申請数		サービスの適用数	
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	計	新規	継続	新規	継続
① 高齢者安心支援事業	1	4	0	0	0	1	1	5	6	1	0	1	0
② 高齢者生活援助事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③ 家族介護用品支援事業	1	7	2	0	3	1	6	8	14	5	0	5	0
④ 高齢者及び障害者住宅改造成事業関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤ ひとり暮らし高齢者訪問事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥ 寝具無料乾燥事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦ 養護老人ホーム入所措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	11	2	0	3	2	7	13	20	6	0	6	0

⑥ 包括的ケアマネジメント支援業務に関すること

項目	相談の形態						合計		
	電話		来所		訪問		新規	継続	計
	新規	継続	新規	継続	新規	継続			
1) 介護支援専門員の日常業務に関する個別指導・相談	2	22	0	4	0	9	2	35	37
2) 支援困難事例等への個別指導・相談	0	108	0	13	0	48	0	169	169
合計	2	130	0	17	0	57	2	204	206

ウ 権利擁護

- ① 西ブロック権利擁護勉強会 毎月1回 第3金曜日（リモート開催）
※権利擁護研修会（令和3年度はリモート開催）
- ② 消費者被害を防ごう（各研修会やつどいの場で広報活動）
- ③ ささえりあ新聞で虐待について掲載
- ④ 西区コア会議4回開催
- ⑤ 西区包括・西区高齢福祉課虐待研修（リモートでのグループワーク）

エ 包括的・継続的ケアマネジメント

- ① ケアマネジャーの後方支援
 - * 主任ケアマネジャーの会での研修会1回（リモート開催）
 - * 日常的個別指導・相談を随時受け付け必要に応じ、同行訪問、巡回訪問、事例検討を行い必要に応じ関係機関と連携を行う。
 - * 介護支援専門員と医療機関との研修会（3回）（うちリモート開催2回）
 - * 西1圏域内「居宅との見守り会議」（2回）（うちリモート開催1回）
 - * 西ブロック居宅と包括の連絡会全体会（1回）（リモート開催）
 - * 自立支援型地域ケア会議開催 10回（会議室とリモート併用）
 - * 課題解決型地域ケア会議の開催 9回
- ② 地域との連携体制作り
 - * 老人会の例会、サロン、敬老会への参加
 - * こはるカフェ（月1回）
 - * ロコトレ（月2回） * グラウンドゴルフ（10回）
 - * 校区社協との定例会（月1回の開催、三和会 年6回（6.8.2.中止））
 - * 民生委員の定例会（月1回）…8回開催（8.9.2.3月中止）
 - * 校区自治協議会・・・池上自治協（5.9.1月中止）
一水会（城山自治協）…（7.9.3.中止）
高橋自治協（令和2年度開催なし）

【書面開催】

- *城山の舎1、2・三和の邑・三和苑グループホーム運営推進会議
- *流永館運営推進会議
- *小規模多機能かがやき運営推進会議

【開催】

- *上代成城グループホーム響き（6月のみ開催、他は書面開催）

オ その他

①認知症について

- *ささえりあ講演会 1回(みつぐまち診療所)
- *認知症サポーター養成講座 熊本西高等学校 228名
高橋小学校 35名
九州中央リハビリ看護学校 実習生4名
医師会看護学校 実習生4名

②広報誌など広報活動

- 広報誌の発行4回
- ホームページへの掲載12回
- 高齢者見守り事業（3校区、町内毎に見守り会議の開催、把握できていない方への戸別訪問）

(6) 三和荘ケアハウス

①接遇マナーを向上させます

毎月1回以上、接遇マナーに関する動画を視聴した。日頃の接遇では、“常に見られている”という意識を持ち、特に姿勢・態度・言葉遣いに注意を払った。また、来荘者（ご家族など）の対応では、マスクで顔・表情が見えづらい分、常に笑顔で思いやりとおもてなしの心を持って、接することを心掛けた。入居者に対しては、感染予防に努めた上で、あえて近い距離間で親しみやすい接し方を取り入れ、良い関係性を築くことができた。

②認知症の方への対応力を強化します

他事業所の専門職による勉強会をとおして、対応力の強化を図った。事業計画の年4回の勉強会は、3回実施することができた。1回目は、包括の専門職による勉強会で、認知症の方への対応の寸劇ビデオを視聴して学んだ。2回目は、施設長との勉強会で、ケアハウス入居者の事例について入居者役と職員役に分かれて、対応を実践する事例検討を行った。3回目は、他事業所の専門職から認知症の5原則についての講義を受けた。自主的な学びに適する認知症に関する図書の紹介も受けた。

③ワーク・ライフバランスを意識した休暇取得を図ります

健康を維持し、継続して意欲的に業務に就くことができるような勤務計画と希望休取得ができた。法人の取り組みである連続3日の休暇も取得して心身のリフレッシュを図ることができた。

④満室を継続させるための広報活動を強化します

三和クリニックに広報紙の掲示を行った。2件の問い合わせがあり1件の入居につながった。ささえりあ・地域コミュニティセンター・公民館などにパンフレット等の配布を検討していたが、できなかった。また、新型コロナウイルス感染予防のため地域活動とあわせた行事が中止となり、広報活動が行えなかった。

ア 入所者年齢別内訳（令和4年3月31日現在）

	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	0	1	4	2	7	86.2	100	72
女性	1	0	9	7	17	86.8	97	65
合計	1	1	13	9	24	86.7		

イ 在所期間

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上	計	平均 在所期間
男性	1	1	4	1	0	7	3年10カ月
女性	2	6	5	2	2	17	5年1ヶ月
合計	3	7	9	3	2	24	4年9ヶ月

ウ 在宅サービス等利用状況

	ホームヘルパー	デイサービス	デイケア	訪問看護	リハビリ	ショートステイ
男性	3	4	1	1	0	0
女性	11	10	4	0	0	0
合計	14	14	5	1	0	0

エ 入・退去者の状況

入居者 3名（男性：1名、女性：2名）

退去者 5名（男性：4名、女性：1名）

退去理由： 他施設（4名）、死亡（0名）、入院（1名）

オ 待機者の状況

男性0名・女性3名・夫婦1組

カ 週間行事

絵画クラブ(第1・第2月曜)中止(新型コロナウイルス感染症対策)
買い物ツアー(毎週火曜)中止し、買い物支援に変更(新型コロナウイルス感染症対策)
書道クラブ(第2・第5水曜)中止(新型コロナウイルス感染症対策)
華道クラブ(第2・第4木曜)入居者のみ
遊びクラブ(月2回)
機能訓練(月3回) 血圧測定(毎月第3週) 映画会(月1回)

キ 月別行事

4月	ドライブツアー中止(新型コロナウイルス感染症対策)・映写会・接遇・認知症の勉強会
5月	健康診断・端午の節句・菖蒲湯・母の日の行事・映写会
6月	父の日の行事・映写会・芝生で食事
7月	七夕行事・映写会・接遇・認知症の勉強会
8月	映写会
9月	敬老の日の行事・映写会・芝生での食事・防災訓練(昼)
10月	映写会・バスツアー中止(新型コロナウイルス感染症対策)・接遇・認知症勉強会
11月	映写会
12月	忘年会中止(新型コロナウイルス感染症対策)・ゆず湯・餅つき(デイサービスにて)
1月	初詣・映写会・接遇・認知症の勉強会
2月	節分豆まき・ひなまつり交流会中止(新型コロナウイルス感染症対策)・映写会
3月	映写会・避難訓練(夜間)

(7) グループホーム出水

①誰から見ても模範となるような接遇を徹底します

グループホーム会議で、ひと月ごとに接遇の目標を設定し、取り組んだ目標の振り返りを全職員で行い、毎日業務日誌に目標を記入して日々目標の確認ができるようにした。また、勉強会を開催したり担当職員を決めて接遇チェックシートを作成し、自己チェックと他者チェックを行い他人から見た視点を知り取り入れていくことで自己の接遇の見直しに繋げることができた。改善は見られているが、徹底出来ていない部分もある為次年度も継続して取り組んでいく。

②認知症ケアの対応力を向上させます

認知症の種類や対応の仕方、パーソンセンタードケアやユマニチュードに基づいたケア、自立支援介護の実践ができるように年4回勉強会を実施し取り組むことができた。水分摂取量、食事摂取量、運動、排泄等の介護職でもわかるデータを取りながら根拠に基づいて介護を実践することで、コロナ禍でも認知症の進行や身体機能の低下を最小限に抑えられたのではないかと思われる。車椅子移動から歩行器歩行へ歩行の質が上がった方がいる反面、病状悪化に伴い介護度が上がった方もいた。次年度も継続して取り組んでいく必要がある。

③求職者から見て魅力ある事業所を目指します

インスタグラムでの情報の発信は月に1回～数回程度となってしまった。3月にインスタグラムで空き状況の情報の発信を行い、問い合わせが数件あった。派遣職員の定着については、8月と11月で2名入れ替わりがあったが、現在3名が定着されている。慢性的な職員不足が続いたが、派遣職員定着後の10月から有給休暇の取得が行え、年間7日間以上の有給休暇の取得や勤続10年目の特別休暇取得、さらに男性職員による育児休暇の取得も行えた。

④利用率95%維持します

重度化予防や感染症に関する勉強会を行いながら、施設内での新型コロナウイルスの発症や他の感染症を抑えることができ、入院者も出なかった。しかし、新型コロナウイルス感染者が熊本市で増加するたびに新規の入所申込みや施設見学が立ち消えになってしまい利用率95%の維持は出来なかった。10月後半より、入所申込や空き状況の問い合わせが増え、12月には一時満床になるも急変

や入院により 2 床空床となってしまった。3 月に、昨年度ポスティングしたチラシを見られた方からの申し込みがあり、現在入居予定となっている。その他、急な見学等に備え、見学対応マニュアルを作成しシミュレーションも行えた。見学者に対して少しでもいいイメージを抱いてもらえるよう、雑草が多かった庭の整備を実施したり、床掃除や片付けを目標とし見た目の改善に取り組んだ。

ア ご利用者の状況

令和 4 年 3 月 31 日現在

性別	男性 0 名 女性 7 名
平均年齢	90.5 歳 (最高 99 歳、最低 82 歳)
認知症の分類	アルツハイマー型認知症……5 名 レビー小体病……………2 名
認知度の程度	IIb…2 名 IIIa…3 名 IIIb…1 名 IV…1 名
要介護度	要支援 2…0 名 要介護 3…3 名 要介護 1…1 名 要介護 4…0 名 要介護 2…3 名 要介護 5…0 名 (平均要介護度 2.3)

退居者 2 名 退居日 R3 年 12 月 17 日 R4 年 1 月 24 日
入居者 1 名 入居日 R3 年 12 月 1 日

ウ 月別行事実績

月	行事	月	行事
4 月	おやつ作り「焼き桜餅」 健康診断	10 月	おやつ作り 「おいもパウンドケーキ」
5 月	母の日のお祝い お弁当	11 月	紅葉狩り (出水ベランダ)
6 月	紫陽花見学 (出水ベランダ)	12 月	もちつき
7 月	七夕飾り	1 月	初詣 (施設内にて手作り神社)
8 月	かき氷作り	2 月	節分豆まき
9 月	敬老の日お祝い お弁当	3 月	おやつ作り「焼き桜餅」

* 週 1 回訪問歯科

* 3 ヶ月毎 1 回介護相談専門員訪問 中止 * 年 3 回訪問理美容 中止

* 国府公民館サロン毎月第 4 金曜日 (13:30~15:00) 自粛にて不参加

* 9 町内自主防災役員会毎月第 4 金曜日 (19:00~20:30) 自粛にて不参加

エ 会議実績

事業所会議 毎月第 1 木曜日 (18:00~19:00) * 職員会議の後の (木)

運営推進会議 2 ヶ月に 1 回偶数月第 3 金曜日 (10:00~11:00)

※今年度は 12 月の運営推進会議のみ集まり、その他の会議は新型コロナウイルス感染拡大に伴い書類郵送にて意見交換を実施した。

事業所内勉強会等

月	勉強会	月	勉強会
4 月	身体拘束委員会・研修	10 月	身体拘束委員会・研修
5 月	リスクマネジメント	11 月	感染症対策
6 月	感染対策 消防訓練	12 月	接遇・苦情対策 消防訓練

7月	身体拘束委員会・研修	1月	身体拘束委員会・研修
8月	接遇・苦情対策	2月	リスクマネジメント
9月	リスクマネジメント	3月	感染症対策

認知症勉強会

月	勉強会	月	勉強会
5月	パーソンセンタードケア	1月	認知症の種類や対応について
8月	自立支援介護	2月	ユマニチュード

(8) デイサービスセンター出水

①評価される接遇を徹底します

挨拶、表情、話し方などの基本的な接遇で印象良くし、日常でのかかわりから信頼を築き、良い支援の基盤を作ることができた。しかし、年4回の接遇自己点検表かを予定していたが、実施することができなかった。

②根拠に基づいた支援を行います

ケアプランに基づいた支援を行い、コロナ禍の中こそできる個別対応で、自立支援の視点から援助を行うことができた。多職種連携により質の高いサービスを提供できるようカンファレンスを行い、ケアの標準化の更なる定義や発展のために、デイ会議や申し送りで情報共有や学びの場を設けることができた。日々かかわる中で得たニーズについても、職員や各関係機関と共有を図り PDCA サイクルを用いて根拠に基づいた支援に努めることができた。

③チーム力の向上を図ります

チーム目標を設定し、チームワークの向上を目指すことができた。業務だけでなく、労務管理の面においてもお互いを気遣いサポートできるように努め、お互いが働きやすい環境、休みがとりやすい環境に努めることができた。

④評判を広げることで、利用率を向上させます

どの事例でも質の高い援助ができるよう、各関係機関との連絡を行ったり SNS で成果を発信していき利用率を 80%以上に引き上げることができた。

ア 月別利用状況

(ア) 全対象者合計利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
営業日数	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	24	27	308	25.7
月間利用者数	39	39	38	37	37	36	39	38	38	37	36	38	452	37.7
月間延利用者数	361	338	335	328	353	361	368	362	343	323	318	329	4119	343
一日平均利用者数	13.9	13.0	12.9	12.1	13.6	13.9	14.2	13.9	14.3	13.5	13.3	12.2	13.4	13.4
利用率	86.8%	81.3%	80.5%	75.9%	84.9%	86.8%	88.5%	87.0%	89.3%	84.1%	82.8%	76.2%	83.6%	83.6%

(イ) 要介護度別利用状況（延利用人員）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要介護 1	195	210	199	175	187	193	210	197	187	167	158	162	2240	186.7
要介護 2	43	26	37	60	65	66	64	68	67	70	65	78	709	59.1
要介護 3	41	26	23	26	27	27	27	28	34	45	52	52	408	34.0
要介護 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	5	13	1.1
要介護 5	5	4	4	3	4	5	3	4	4	0	0	0	36	3.0
合計	284	266	263	264	283	291	304	297	292	286	279	297	3406	283.8

(ウ) 要支援者利用状況（延利用人員）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要支援 1	6	7	6	0	4	4	7	8	8	6	3	4	63	5.3
要支援 2	71	65	66	64	66	66	57	57	43	31	36	28	650	54.2
合計	77	72	72	64	70	70	64	65	51	37	39	32	713	59.4

(エ) 季節の行事

- 4月 出水カフェ 4/14 オンラインつつじ 3/29～4/2
- 5月 端午の節句 5/5 母の日週間 5/11～16 出水カフェ 5/18
- 6月 出水カフェ 6/17 父の日週間 6/15～20
- 7月 出水カフェ 7/22 7/7 七夕行事食 七夕飾り 6/28～ 土用の日 7/28
- 8月 夏祭り 8/16～21 出水カフェ 8/20
- 9月 敬老会 9/20～21 出水カフェ 9/18
- 10月 出水カフェ 10/19
- 11月 出水カフェ 11/23
- 12月 出水カフェ 12/15 クリスマス・忘年会 12/21～27 ゆず湯 12/22
- 1月 初詣 1/4～9 出水温泉 1/4～1/10
- 2月 出水カフェ 2/18 恵方巻 2/3
- 3月 出水カフェ 3/19 ひなまつり行事食 3/3

イ デイサービスセンター出水における業務の取組み

① 送迎

安全に送迎ができるように人員を配置し、ご利用の方が安心して利用できるように状態に合わせた送迎に努めた。認知症の方で自宅での衣類準備や衣類交換など生活介助が必要な方への対応を行った。また送迎時ご自宅の様子を伺い在宅生活が維持できるよう各関係機関との連携に努めた。また、3か月に一度の訪問はコロナ感染症予防のため控え、担当者会議時に、ご自宅での動作の確認を行い、環境整備、機能訓練について確認を行った。

② 健康チェック

ご利用の方が安心して利用できるように、看護職員を中心に利用日毎に健康チェック、状態の把握を行い、体調不良や急変時に対応できる体制を整えてサービスの提供を行った。血圧等のバイタルチェックで再検の場合は職員間で共有し、適宜適切に対応した。また、必要に応じて病院受診の相談や変化時の報告等を行い、家族・各関係機関との情報交換を密に行うように努めた。

③ 生活相談

ご利用時は自宅での様子や悩み等の把握ができるように、全職員でかわりを多く持ち、ご自宅での生活課題解決のため助言や関係機関との連携を重視した。職員間での情報共有のため日々の申し送りでは内容を濃く、申し送りノートを活用し細かく記載した。

④ 機能訓練・運動器機能向上訓練

機能訓練指導員を中心に多職種で連携し機能訓練計画書を作成した。在宅生活を想定した機能訓練を行うとともに、より在宅で問題なく生活を送れるよう自立支援の視点で援助を行った。個別での訓練では、個々の状態に合わせて計画的に実施し、心身の活性化に努めた。

⑤ 日常動作訓練

週ごとにレクリエーションを決め、心身の活性化に努めた。個別レクリエーションでは脳トレ、作業療法、歌活動、身体活動等をご利用者自身で選択し、生きがいづくりや日々の楽しみとなるよう支援した。またできる能力維持のため、レクリエーション以外でも生活リハビリの視点で自立支援に努めた。

⑥ 食事

ご利用者の状態や希望に沿った食形態・代替食等で提供を行えるよう調理師と連携に努めた。デイサービスでの食事を楽しみにしていただけるよう、食事が楽しみになるような工夫や出水カフェ、行事食を行った。手作りにこだわり、ご利用者の希望されるメニューの聞き取りにも力を注いだ。

⑦ 養護

静養室にベッドを確保し状態に合わせ静養時間を設けた。病気の影響、体力の低下や心配がある方は看護職員や各関係機関と相談し、適切に対応した。また、メドマー・マッサージ機など物理療法を活用し、気分転換できるように努めた。

⑧ 入浴

入浴中の病院受診を必要とする大きな事故は無かった。ご利用者の入浴動作維持のため自立支援の視点で、個別機能訓練計画書や通所介護計画書と連動し、できる動作やできない動作の見極めを行い、過介助にならないよう徹底した。今年度も第二週を入浴剤週間とし好評だった。

ウ その他

① 地域との関わり・PR活動

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で白山 7・9 町内サロンへの参加は自粛させていただいた。また運営推進会議も感染拡大防止のため、6・12月に書面にてお願いをさせていただくなど、地域との関わりについて影響が出た一年だった。来年度はサロン以外でも通所サービスに求められる役割が増えたため、全てをスムーズに対応するべく準備を進めていく。

②書類関係

ケアプランに基づいた目標を立て、援助・評価ができるように努めた。毎月1回評価を兼ね担当ケアマネジャーへ報告を行った。運動器機能向上加算(要支援)、機能訓練加算Ⅰ、認知症加算は毎月評価等を行った。

② 会議等

毎日、朝夕に、ご利用者情報の共有を密に行い職員間のケアの標準化や統一を図った。月1回のデイサービス会議では、実績、ご利用者情報の共有、行事の確認、法令や介護保険についての学び、接遇、利用率向上の学び、認知症の勉強会などを行った。法人内研修は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出水事業所内にてリモートで実施した。リモートは職員会議でも活用したが、移動時間が無くなるため大変効率的で、生産性向上に繋がった。

(9) グループホーム三和苑

①丁寧な言葉遣い、適切な身だしなみ、元気の良い挨拶で気持ちよく仕事に臨みます

毎月「接遇チェックシート」にて自己の振り返りとチームの気づきを記入し、目標達成度を数値化することで客観的に自分の足りない所に気づくことが出来た。また、チームメンバーがいつでも回覧出来るようにして全体で共有することで、メンバーがどのような点に気づいているのかを知ることが出来、新たな気づきを得たり、メンバーの考え方、捉え方を知ることが出来た。

チーム全体としては、お互いの良い所を認め合い、不足している所は補い合い、チームケア力の向上に努めることが出来た。人間関係も良好に保つことが出来、働きやすい環境を作ることが出来た。

②ご利用者の尊厳を大切に日々の関わりから学びを得ます

毎朝三和苑のケア理念を声に出して復唱し、念頭に入れてから仕事に臨むことで、丁寧なケアに努めることが出来た。対応が困難な方に対しても、どうすれば良いか、チーム内で検討会を行い、その方の生活ペースを大切に寄り添ったケアに努めた。

また、認知症に関する学習会を2か月毎に担当制で行い、それぞれの専門性のスキルの向上につなげたと共に、チーム全体の実践力の向上につながった。

③職員が前向きな気持ちで働くことが出来るようなチームワーク作りを行います

メンバーそれぞれの特性を大事にし、得意なことはその力をいかんなく発揮してもらい、不得意なことはチームで補いながらチームケア力の向上を大切にしました。計画していた、年2回以上の3連休の取得も実現出来、働く上でのモチベーションの向上につながった。

④年間利用率 95%以上を目指します

体調不良による退居や、特養への入所などが相次ぎ、年間利用率 70%と目標達成には程遠かった。一度も満床だった月がなく、営業活動もおこなったが、入所につながった例は少なかった。日頃からの営業活動、ケアマネジャーとの関係づくりの大切さを痛感した。今年度の反省を糧に次年度は満床になれるよう努力したい。

ア ご利用者の状況

令和4年3月31日現在

性別	男性 0名	女性 6名	
平均年齢	85歳 (最高93歳 最低82歳)		
認知症の分類 疾患名	脳血管性認知症 0名	アルツハイマー型認知症 5名	前頭側頭型認知症 1名
認知症の程度	IIIa 6名		
要介護度	要支援2…0名	要介護1…2名	要介護2…2名
	要介護3…2名	要介護4…0名	要介護5…0名
	(平均介護度 2.0)		

入所者 4名 退所者 5名

イ 月別行事实績

月	行事	月	行事
4月	健康診断	10月	ハロウィンパーティ
5月	しょうぶ湯 救急法	11月	ワックスがけ
6月	紫陽花ドライブ	12月	クリスマス会 ゆず湯
7月		1月	初詣
8月	夏祭り	2月	節分豆まき 梅ドライブ
9月	敬老行事 消防訓練	3月	雛まつり 花見ドライブ 消防訓練

*週1回訪問看護

*3ヶ月毎1回介護相談専門員訪問

ウ 会議実績

事業所会議 毎月第3水曜日 (10:00~11:00)

運営推進会議 2ヶ月に1回奇数月第3水曜日

11月のみ開催 (文書回覧での開催5回)

口腔勉強会 月1回

身体拘束廃止及び高齢者虐待防止勉強会 (4月・7月・10月・1月)

(10) 三和苑デイサービスセンター

①接遇の基本に立ち返ります

基本の挨拶は勿論、言葉遣いを定期的に自身で評価し、振り返りを行った。初心にかえり、ご利用者に対する言葉遣いや対応を行うことで安全・安心に繋がりが、信頼関係の再構築ともなった。身だしなみや表情、態度にも注意していた。職員間でも同様で、思考や感情、意思、価値観などを言葉で具体的に伝え合い、お互いにわかり合おうとすることを大切にする事で良好なチーム作り

となった。改めてチーム力の大切さ、コミュニケーションの重要性を感じた。接遇の良し悪しで自分が事業所の評価に繋がることを念頭に置き、今後も継続できるよう努めていく。

②ユマニチュードを基本とし、寄り添いながら支援を行います

ユマニチュードの勉強会は開催できなかったが、関わり方を常に意識したケアを行えた。「見る・触れる・立つ・話しかける」の基本を大切にし、ご利用者の機能維持や心身の回復・維持へと繋がった。認知症利用者に対するケアで困難な場合は、早期に話し合いを設け、尊厳を守ることを意識できたのではないと思う。研究課題を通して、言葉でのコミュニケーションのみに関わらず、相手を思う気持ち、寄り添う気持ちを改めて学ぶ機会となった。まだまだ、人間力、ケア力は十分とは言えないが、常に目標を持ち続けることが、ご利用者満足度の向上につながると感じた。

③業務負担の軽減を図ります

前年度同様、ご利用者に合わせた介護方法を見直しながら、情報の共有を行った。安全に、統一したケアを行う事で、問題の解消へと繋がることが職員の負担の軽減にも繋がった。会議でリスクの検討を行う事で、問題の早期発見に繋がった。ご利用者、全職員（腰痛予防、運動不足解消）を交えラジオ体操も継続している。

職員は、リスクマネジメントに心がけ、その日のご利用者の心身状態を把握し、状態に合ったケアを行い、事故、転倒が起きないように努めた。ヒヤリハット24件、事故（インシデント）は、2件となった。

コロナ対策の業務を継続している中で、定期的に話し合いをしながら今後も感染対策の強化を検討し対応していく。

④前年度以上の利用率の向上を目指します

若干ではあるが前年度の利用率より向上した。寄り添うケアを実施し、関りを重点的に考え、ご利用者満足度の向上を視野に入れたケアに繋がった。ご利用者の安定した利用の定着と認知症に伴う問題の解消に努めた。人によってそれぞれ違う居心地があり、人と人の触れ合いが精神的作用を生み、様々な感情がでてくる。感情へ働きかけること、ユマニチュードの実践、傾聴することで職員との関係づくりができた。プランを立て実行し、上手くいかなかったらまた再検討し、改善に繋がるまで試行錯誤を繰り返し、ケアが定着するまで取り組んだ。新たなアクティビティ活動を取り入れる事で既存のサービスの充実、意欲の向上を図った。このことが、ご利用者の心身の活性化と満足や、職員のマンネリの防止にも繋がった。

ア 月別利用状況

(ア) 全対象者合計利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
日数	26	26	26	27	26	26	26	26	27	24	24	27	311	25.9
月間利用者数	63	64	67	65	65	64	64	61	62	58	55	56	744	62.0
月間延利用者数	676	677	726	755	710	709	720	703	675	562	548	473	7934	661.2
一日平均利用者数	26.0	26.0	27.9	28.0	27.3	27.3	27.7	27.0	25.0	23.4	22.8	17.5	25.5	25.5
利用率	86.7%	86.8%	93.1%	93.2%	91.0%	90.9%	92.3%	90.1%	83.3%	78.1%	76.1%	58.4%	85.0%	85.0%

(イ) 要介護度別利用状況（延利用人員）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要介護1	269	267	305	323	294	292	315	322	287	260	238	219	3391	282.6
要介護2	155	160	150	144	136	127	130	124	161	145	141	116	1689	140.8
要介護3	117	110	130	100	105	126	112	103	103	85	96	64	1251	104.3
要介護4	13	15	13	61	58	54	65	53	41	11	15	25	424	35.3
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	554	552	593	628	593	599	620	602	592	501	490	424	6748	562.3

(ウ) 介護予防対象者利用状況（延利用人数）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
事業対象者	6	6	7	6	6	7	6	6	7	6	6	4	73	6.1
要支援1	36	30	33	27	26	22	21	21	18	14	22	23	293	24.4
要支援2	80	89	88	94	85	81	71	74	58	41	30	22	813	67.8
合計	122	125	133	127	117	110	100	101	83	61	58	49	1186	98.8

イ 三和苑デイサービスセンターにおける業務の取り組み

① 送迎

各ご利用者の心身の状態や、家族の意向を考慮しながら、安全で快適に送迎できるように努め、効率よく配車し時間の調整を図りながら送迎を行った。乗車前の検温、消毒、換気を行う。

(送迎地域・・・城山、中島、池上、高橋、小島、松尾、春日、川尻、南高江、白藤の各校区)

ご家族にも協力を求め、乗車時の検温、消毒、換気、マスク着用の徹底を行うことでコロナウイルスに対する対応策を行う。

② 健康チェック

血圧・体温・脈拍を測り、その日の健康状態を把握して日中の様子を観察した。異常がある場合は早期対応を心がけ、ベッドで静養したり、急変時には病院受診する等の処置を行った。

③ 運動器機能向上訓練・機能訓練

ストレッチ（セラバンド、タオル体操は道具を使う為中止）、平行棒、バランスマット、マシーン、TV体操、散歩による上下肢運動等それぞれに応じた訓練を行い、身体の筋力と柔軟性の維持、向上を図った。また、頭の体操や作業療法も取り入れ、心身の活性化に繋げた。城山公園の散歩も継続して行う。

④ レクリエーション・余暇活動

心身の活性化を図る目的として趣向を凝らした活動を行い、ご利用者に飽きのこない楽しい活動になるよう行った。また活動を通じて交流も図った。密にならないようレクリエーションを大幅に変更し、試行錯誤しながら行う。季節の行事では、その月に応じた活動を行うが、花見ドライブも状況を見て

判断し、自粛せざるを得なかった。個別のレクを行い、密を避けた。また、気候をみながら外での日向ぼっこと季節に応じたレクや余暇活動を行った。(梅、桜、藤の花、紅葉ドライブ・父母の日・夏祭り・敬老会・もちつき等)

⑤ 食事

食前の口腔体操を行い(なるべく発声は控える)、手洗い、手指消毒、パーテーションの設置をし、個々の心身状態や嗜好に応じた食形態を提供し、嚥下や食事量にも注意し、誤嚥がないよう見守りに努めた。おやつ作りも月1回行った。

⑥ 入浴

湯あたりや転倒、容態急変等に注意し、安全に快適に個々の心身状態に応じてその人に合った入浴介助を行い、清潔保持に努めた。また、密にならないよう配慮し、消毒を行いながら実施した。

⑦ 養護・物理療法・マッサージ

ベッドや畳の上でゆったり心地良く休めるように環境を整え、マイクロ波やメドマ、マッサージ機等の物理療法を行った。また、専門職員による身体のマッサージを行い、首、肩、腰等、筋肉をほぐし安楽を図った。

⑧ 相談

個々のご利用者が抱えている悩みについて傾聴し、問題がある場合はご家族、居宅や包括と連携して早期の問題解決に努めた。

⑨ 事務・書類等の処理

介護保険請求は実績・単位数等をよく確認して行い、他事業所との連携でミスがないよう行った。介護計画書の作成は担当者会議に参加した職員が作成し、ケアプランとして各職員が情報を共有し、現場で反映するように行った。また、他の書類も役割分担をして、各自の責任のもと書類を作成した。職員の事務的な負担を少しでも軽減する為、ご利用者となるべく関わる時間を設ける為、パソコンでの作業を少しずつ取り入れてきた。書類の整理にも時間を要した。

⑩ その他

朝夕にミーティングを行い、その日の日程や役割の確認や、問題点や改善点などを全員で話し合い、情報を共有してチームワークによるスムーズな業務の遂行と問題解決に繋げた。役割の細分化を行い、ミスの防止に努めた。また、三和苑の理念である安全・安心・信頼を伝え、職員一人ひとりの介護サービスの質の向上を考える機会となった。また、新型コロナウイルス感染予防対策(換気、マスクの定着、手指消毒、共有部の消毒)を徹底した。現在もボランティアは、お断りしている。

3月19日にご利用者の新型コロナウイルスの感染者1名が確認され、その後も職員とご利用者の感染者が確認されたため、事業所を休業し、保健所の指示に従う。家族、関係各所への連絡は勿論だが、不安に思う方も多数みられた。今後の感染対策の強化と安心して過ごしてもらう為の更なる対策を行い、職員一同力を合わせ、信頼を取り戻すため努める。

5. 事務部

①法人窓口であることを意識したレベルの高い接遇を目指します

接遇の基本である「言葉遣い」「態度」「身だしなみ」の3要素を意識して、事務部が全職員の見本となるような意識で努めた。その成果からか、他法人サービス事業所の職員からお褒めの言葉を頂いたこともあった。新型コロナウイルスの感染予防もあり、来荘者への対応にも気を配りながら取り組んだ。

②ホームページを充実させ、法人イメージの向上を図ります

職員専用のホームページを充実させ、各事業所の行事の様子や申請書類のダウンロードなどを行えるように改善を図った。外部の方への情報発信については現況報告や事業計画、職員状況などの公開を行ったが、地域交流の行事などが開催できず、地域に向けた情報発信はあまり行えなかった。

③働きやすい雇用環境の整備を行います

真光会行動計画の令和3年度の目標でもあった有給休暇の3日以上連続した取得計画の策定等について、職員に向けて周知啓発に努めた。それから、毎月の取得状況を各事業所担当者に報告し取得を促した。年度末までには年次有給休暇の法定取得義務者の取得については、全員が達成できた。3日以上の連続休暇取得については、グループホーム勤務を除く常勤職員について、ほぼ取得することができた。

④法人・事業所の経営上を的確に把握し、全職員に分かりやすく周知していきます

収入及び支出の状況を四半期ごとに年4回全職員に周知し、経営参画の意識レベルの向上に努めた。令和3年度も新型コロナウイルスの影響もあり、収支バランスの改善には至らなかった。

6. 災害対策・安全衛生管理・設備保守点検

目標	具体的目標		項目	拠点	実績											備考		
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		3月	
災害対策	①	防災教育	①防災教育	全体							9/27							
	②	防災訓練	①火災 ②地震 ③風水害	全体							9/27						3/18	
安全衛生管理	①	浴場機器管理	①循環浴ろ過装置機器点検	三和荘	4/24			7/11				10/29			1/9			
			②温水ヒーター機器点検				7/11					1/9						
			③循環浴配管洗浄				7/11											
			④循環浴ろ過装置ホーネット(1回/3年毎)															
			⑤循環浴レジオネラ菌水質検査				7/11							1/9				
	②	井戸水衛生管理	①浄水水質検査(50項目検査・9項目検査)	三和荘	4/15	5/18	6/7	7/13	8/23	9/22	10/4	11/4	12/8	1/6	2/7	3/3	6月9月12月3月:50項目 39+指標菌	
②原水水質検査			4/15							10/4				2/7				
③	給排水設備管理	③浴場レジオネラ菌水質検査(特養)	三和荘	4/15	5/18	6/7	7/13	8/23	9/2	10/4	11/4	12/8	1/6	2/7	3/3	※R7年度(2025年度)予定		
		④井戸水ろ過装置機器点検		4/15	5/18	6/7	7/13	8/23	9/2	10/4	11/4	12/8	1/6	2/7	3/3			
		⑤井戸水ろ過装置ホーネット(1回/7年毎)																
		①受水槽・ポンプ点検														2/4		
④	電気保安管理	②受水槽清掃	三和荘												2/4			
		③受水槽水質検査													2/4			
⑤	定期清掃	①ワックス掛け(特養)	三和荘				7/30					11/30				3/4		
設備保守管理	①	消防設備	①定期点検	三和荘				7/9							1/13			
			出水	三和苑	4/27		6/24						12/23					○機器点検 ◎総合点検
	②	建築設備	①建築設備定期検査	三和荘			6/10											
			②特殊建築物定期検査(1回/3年毎)	三和荘														※R4年度予定
	③	防火対象物	①防火対象物点検	三和荘			6/17											
	④	エレベーター設備	①機器点検	三和荘	4/13			7/12				10/15			1/17	2/16	3/24	
			出水	三和苑	4/17			7/17					10/14			1/31		
	⑤	リフト設備	①機器点検	三和荘	4/13	5/12	6/11	7/12	8/12	9/9	10/15	11/11	12/13	1/17	2/16	3/24	○保守、◎法定	
	⑥	空調設備	①機器点検	三和荘		5/19			8/2				11/5			2/1		◎保守点検 ○自主点検
⑦	浄化槽維持管理	①定期点検	三和荘	1.15	1.17	1.4.16	1.15	3.16	1.14	1.15	1.15	2.17	5.19	2.17	3.16		○保守、◎清掃	
		②法定検査	三和荘													3/5		
⑧	厨房機器点検	①機器点検	三和荘		5/21				8/2				11/26		2/1			
		出水	三和苑			6/18				6/1			12/27			3/1		◎保守点検 ○自主点検
⑨	防災カーテン	①定期クリーニング	三和荘					8/16										
			出水 三和苑															

7. 職員研修の状況

(1) 法人内研修

令和3年度

【法人内研修】		
実施日	研修内容	参加人数
R3.4.22	高齢者福祉施設におけるビジネスマナー向上研修 防災教育(避難確保計画)	66名
R3.5.27	食中毒について 救急法研修 新型コロナウイルス感染症について(施設での感染拡大を防ぐ)	65名
R3.6.24	リスクマネジメント 事故防止 むせたとときの対処法 決算報告	62名
7月	BPSD 職場の人間関係を良くする方法	66名
R3.9.23	令和3年度取組中間発表(WEB開催)13事業所	63名
R3.10.28	高齢者の権利擁護 (基本的人権 高齢者虐待防止法 不適切ケア 事例)	68名
R3.11.25	上半期経営報告 感染症について BCP(業務継続計画)について	59名
R3.12.23	事故防止とリスクマネジメント	65名

※8月、1月～3月 コロナウイルス感染予防のため中止

【新人職員採用時研修】

採用日	職員	内容
R3.8.1	上野 裕修	社会福祉法人真光会経営理念・実施事業概要について 事故防止とリスクマネジメント・感染症対策等 各事業所見学・説明
R3.12.20	関 菊那	
R3.12.27	舩岡 千尋	

(2) その他の研修

【特別養護老人ホーム三和荘】		
日付	研修名	参加者(職種)
4月3日	九州沖縄地区オンライン床ずれセミナー、床ずれ対策の知識と技術～	大川洋江(看護職員)
5月19日	感染症対策研修	出口美恵(介護職員)
6月1日～	介護施設における安全対策担当者養成研修	出口美恵(介護職員)
6月16日	排泄障害②頻尿・夜間頻尿・機能性	大川洋江(看護職員)
6月24日	口腔ケアWEBセミナー 令和3年度の介護報酬改定を受けて、介護報酬改定に関する解説・介護高齢者の方々への口腔ケアの有用性の開設	角田美津子(歯科衛生士)
6月29日	介護施設の安全対策担当者のためのリスクマネジメント研修	笠原直子(生活相談員)
7月6日	抱え上げない介護「ノーリフティングケア」とは	池田弘(介護職員)
9月30日	熊本県老協口腔ケア研修会	角田美津子(歯科衛生士)
11月16日	令和3年度熊本県老人福祉施設認知症ケア研究会	矢野晃誠(介護職員)
11月19日	福祉人材採用力向上セミナー	出口美恵(介護職員)
11月28日	マネジメントスタンダードプログラムfor Kaigo in 熊本	永田健司(介護職員)
12月10日	介護ロボットが切り開く新しい介護～介護ロボットICT最前線～	高瀬直人(機能訓練指導員)
1月14日	雇用管理責任者講習 介護現場におけるハラスメント対策 現場力アップのための職場コミュニケーション	出口美恵(介護職員)
2月5日	令和3年度熊本県家賃用紙会福祉職域事業部研修会「嚥下機能の低下した高齢者の栄養管理」	安富貴子(管理栄養士)
2月20日	マネジメントスタンダードプログラムfor Kaigo in 熊本	永田健司(介護職員)
3月6日	本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会	笠原直子(生活相談員)

【三和荘通所介護事業所】		
日付	研修名	参加者(職種)
9月14日	ADL維持等加算対応バーサルインデックス研修	勝山藍子(機能訓練指導員)
9月14日	ADL維持等加算対応バーサルインデックス研修	中津慎吾(管理者)
10月18日～	令和3年度九社連老人福祉施設協議会 通所介護部会セミナー「通所介護事業所におけるBCPの作成とLIFEの活用について」	中津慎吾(管理者)
1月25日	令和3年度介護報酬改定におけるLIFE研修会	勝山藍子(機能訓練指導員)

【三和荘ケアハウス】		
日付	研修名	参加者(職種)
3月4日	軽費・ケアハウス部会「コロナ禍におけるメンタルヘルスケアについて」	石原舞子(栄養士)
【熊本市西1地域包括支援センター】		
日付	研修名	参加者(職種)
6月11日	令和3年度熊本県高齢者権利擁護基礎研修	上妻美穂(介護支援専門員)
8月19日	令和3年度第1回熊本市ゲートキーパー養成研修会	村上恵子(生活支援コーディネータ)
11月16日	生活支援コーディネータ養成研修	伊藤千春(主任介護支援専門員)
11月16日	生活支援コーディネータ養成研修	上妻美穂(介護支援専門員)
【三和苑デイサービスセンター】		
日付	研修名	参加者(職種)
10月18日 ~	令和3年度九社連老人福祉施設協議会 通所介護部会セミナー「通所介護事業所におけるBCPの作成とLIFEの活用について」	泉宣行(管理者)
【デイサービスセンター出水】		
日付	研修名	参加者(職種)
6月26日	福祉の就職総合フェア2021夏	和泉翔大(管理者)
10月18日 ~	令和3年度九社連老人福祉施設協議会 通所介護部会セミナー「通所介護事業所におけるBCPの作成とLIFEの活用について」	和泉翔大(管理者)
【グループホーム出水】		
日付	研修名	参加者(職種)
2月15日	派遣先における派遣・請負適正化セミナー	濱本大介(管理者)
3月15日	2024年介護報酬改定予測今から備えるべきこと	濱本大介(管理者)
【グループホーム三和苑】		
日付	研修名	参加者(職種)
6月30日	令和3年度認知症介護実践者研修	中村浩二(管理者)
~8月12日	令和3年度認知症介護実践者研修	山形孝子(計画作成担当者)
8月25日・26日	令和3年度認知症対応型サービス事業管理者研修	中村浩二(管理者)
【事務】		
日付	研修名	参加者(職種)
4月21日	自社に合った採用を企画・実践するDIYラボ・オンラインセミナー	黒田修代(事務)
5月24日	事業所管理者セミナー2021「福祉人材の確保と育成・定着について」「福祉人材センターへの求人と面談会の効果的な活用について」	白石幸大(出納員)
6月16日	義務化のポイントと事故防止体制強化について(Webセミナー)	黒田修代(事務)
6月26日	福祉の就職総合フェア2021夏	白石幸大(出納員)
8月30日	社会福祉法人の経営力強化 計算書類の存在価値・働き方改革は目標ではなく手段	白石幸大(出納員)
8月31日	社会福祉法人の経営力強化 計算書類の存在価値・働き方改革は目標ではなく手段	黒田修代(事務)
10月22日	令和3年度社会福祉法人労務研修会	黒田修代(事務)
10月25日	社会福祉法人 人事・労務管理講座 労務管理関連法令の内容と対応のポイント	白石幸大(出納員)
10月26日	社会福祉法人 人事・労務管理講座 人事管理を支える制度の理解と構築方法	白石幸大(出納員)
11月18日	初めての外国籍活用シンポジウム	黒田修代(事務)
11月19日	福祉人材採用力向上セミナー	白石幸大(出納員)
12月14日	障害者職業生活相談員資格認定講習	黒田修代(事務)
12月15日	障害者職業生活相談員資格認定講習	黒田修代(事務)
12月15日	事務長・事務担当者研修会	白石幸大(出納員)
2月15日	派遣先における派遣・請負適正化セミナー	白石幸大(出納員)
2月16日	介護職員処遇改善支援補助金解説セミナー	白石幸大(出納員)
2月18日	介護職員処遇改善支援補助金解説セミナー	黒田修代(事務)
2月25日	令和3年度社会福祉法人法令関係研修会(オンライン研修)	白石幸大(出納員)
【第三者委員】		
日付	研修名	参加者
2月9日	令和3年度福祉サービス苦情解決事業第三者委員研修会	由川和夫

【施設長】		
日付		研修名
5月19日		感染症対策研修
8月18日		熊本市老施協役員会
10月15日		熊本市老施協施設長会
11月25日	~3月31日	第78回全国老人福祉施設大会山口大会(WEB)
12月1日		令和3年度第2回熊本県老人福祉施設協議会総会
12月13日		令和3年度社会福祉法人制度改革対応セミナー前期
2月25日		熊本市老人福祉施設協議会総会
3月1日	~31日	令和3年度九州老人福祉施設協議会施設長WEB研修会(宮崎大会)
3月4日		介護現場(施設サービス分)における生産性向上に関するセミナー実践報告会
3月9日		令和3年度熊本県老人福祉施設協議会施設長会議
主任介護支援専門員研修		
本田久美		
介護支援専門員更新研修		
松本亜紀 出口美恵		
介護支援専門員実務研修		
松田佳代 中津慎吾		

